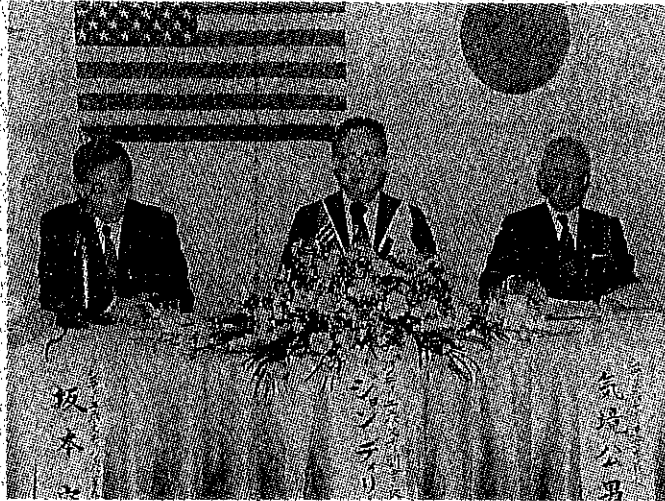


米大学が旭川進出

来春から学生募集

自然条件、誘致活動実る

アメリカ・ワシントン州のシヤトル・ユニバーシティの日本校が、来年四月に旭川で開校する。西ドイツ、スイス、カナダに海外分校のある大学で、アメリカ校の本道進出は初めて。すでに同市五の十五の校舎の建設に着手している。



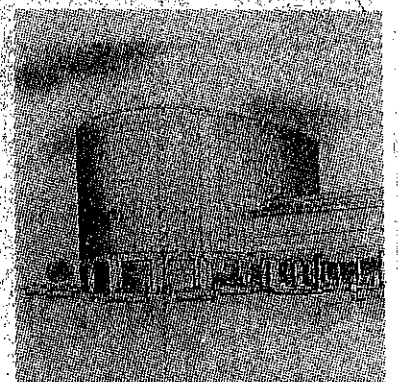
校舎建設にも着手

十五日、旭川で記者会見したシヤトル・ユニバーシティのジョン・C・テイラー副学長、日本校運営委員会の坂本寺同事務総長による、日本校旭川進出の文化交渉の推進と国際社会で活躍できる国際人の養成が目的。開校予定は四月十六日。第二年度は三百人、第三年度は五百人の入学を予定。最終的には三千人規模の大学を目指すという。

日本校について説明するテイラー副学長(中央)と坂本寺事務総長(右)

教師十五人、二十人ほどでアメリカ人。入学者は約二年間、英語の集中講座を受け、同校で正めた成績を修得した段階でシヤトル・ユニバーシティ・シヤトルに留学、二年制短大か四年制大学の学部へ入学できる。平成四年からは、旭川の日本校でも学部授業が行われる。本校のシヤトル・ユニバーシティ・シヤトルは一九七三年創立の若い大学で、学生数は六千七百人。経営学部と教育学部があり、副学長は「旭川は、旭川市議の経歴がアメリカ西海岸

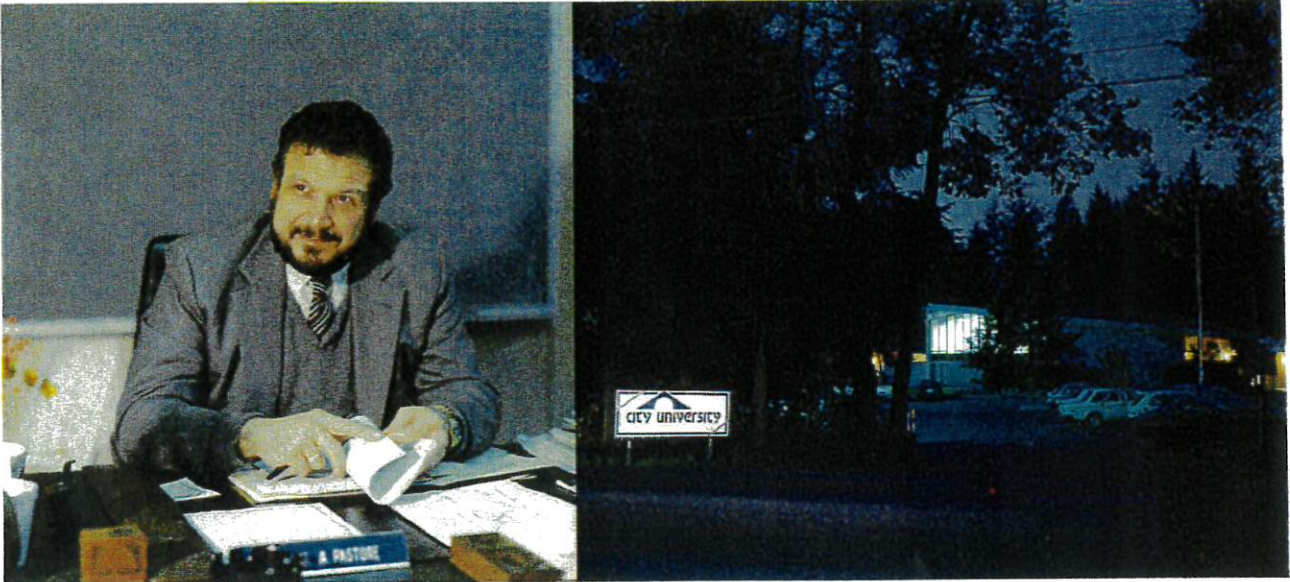
で最も強い大学として知られ、ドラムチックな発展。三十年代の会社勤務が仕事の終わりとあつた。旭川に進出するにあたり、日本校でも本校方式を出発点を取り入れ、英語集中講座、学部と専門を広くし入学資格、年齢の制限を付けないの原則にする方針。副学長は旭川に設置を決めた理由として、同市の民間からの熱心な誘致活動があつたこと、シヤトルと旭川が同緯度帯にあって気候的に教授陣がなじみやすいと語られること、地価が安いのが諸施設整備がしやすいことなどを挙げ、今回の計画では既成校舎を出さないため日本校に合ったカリキュラムを作成、副学長は「シヤトルについては日本校が本校の直系であつて、ありえないと強調した。とりあえず校舎は来年九月に完成。それまでは仮校舎で勉強す



2年以内に建設が予定される大型校舎の完成予想図

なと、シヤトルと旭川が同緯度帯にあって気候的に教授陣がなじみやすいと語られること、地価が安いのが諸施設整備がしやすいことなどを挙げ、今回の計画では既成校舎を出さないため日本校に合ったカリキュラムを作成、副学長は「シヤトルについては日本校が本校の直系であつて、ありえないと強調した。とりあえず校舎は来年九月に完成。それまでは仮校舎で勉強す

トランプが多岐一な問題点を挙げ、今回の計画では既成校舎を出さないため日本校に合ったカリキュラムを作成、副学長は「シヤトルについては日本校が本校の直系であつて、ありえないと強調した。とりあえず校舎は来年九月に完成。それまでは仮校舎で勉強す



親愛なる生徒諸君へ

シティー・ユニバーシティーは、アメリカでも数少ない特色のある大学で、私の知る限りではアメリカ北西部ではこのような大学は存在しません。私たちの大学の特色は、地域重点主義、実務主義、そして国際化志向で、高度な教育実現を阻害するなんらの排他的方針は持ち合わせておりません。

私たちの大学の目標は、学びやすく融通性に富み、実用的な教育プログラムをたえず用意することにより、学生諸君をそれぞれの分野のプロに育てることにあります。

私たちの学位、及びその他の課程はすべてこのことを重点におき、学生の将来を中心に考慮され開発されております。シティー・ユニバーシティーの学長として、私は皆さまの入学を心から歓迎します。

特に、私たちは日本人学生諸君のために、特別に開発された英語集中講座に自信を持っております。私たちは日本の学生諸君が大学教育において、大きな成果をあげることに役立ちたいと念願しております。あなた方は、カナダ、ドイツ、スイス、日本に海外校を持つシティー・ユニバーシティーに加わることになるのです。

ウェルカム！

シティー・ユニバーシティー学長 ミカエル・パストーレ

